

## 平成25年度鈴鹿工業高等専門学校専攻科入学式 校長式辞

本日、春の香りが満ち溢れ、桜花咲き誇る、この良き日、平成25年度鈴鹿工業高等専門学校専攻科入学式を挙げていただけますことを、大変嬉しく思います。学科での優秀な成績に基づいた推薦や、厳正な選抜試験を乗り越えて入学された24名の専攻科入学生の皆さん、誠におめでとうございます。教職員一同を代表して心からお祝い申し上げますとともに歓迎いたします。

高専の専攻科は、本科の教育の基礎の上に立って、専門領域における高度の知識・技能を使いこなすとともに、複合領域に対応できる幅広い視野を身につけ、高度の課題設定・問題解決能力を備えた創造性豊かな実践的技術者の育成を目指すものです。

電子機械工学専攻、応用物質工学専攻からなる本校の専攻科は、全国高専の草分け的な存在の一つとして1993年に創設され、本年で20年目を迎えます。2003年には、本科の4、5年と専攻科を合わせた4年間の「複合型生産システム工学」プログラムが、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けました。このプログラムの学習・教育目標を達成し、本専攻科を修了することにより、国際的に活躍できるエンジニアとしてのスタートを切る、お墨付きを得ることができます。さらに大学評価・学位授与機構から学士の学位が授与されます。皆さん方は、2週間前の卒業式に参加し、修了生が、専攻科修了証、JABEE プログラム修了証、学位記の三つを手にしたことを覚えていると思います。

本専攻科に入学した諸君は、大学の3年次学生に相当しますが、一般の大学3年次学生より高度な専門的な知識ならびに技能を修得していると断言できます。専攻科入学後はこの専門的基礎の上に立ち、一層の努力が求められます。21世紀は、新しい知識・情報・技術が社会発展の重要な基盤となる「知識基盤社会」の時代であるといわれています。この知識基盤社会を支えるためには、物的資源の乏しい我が国においては他の国にも増して、人的資源の役割が重要な位置を占めます。この人的資源の充実に当たっては、豊かな基礎および専門的学力をベースに、社会や学術の要請に応じた柔軟な創造力、そして厳しい国際競争に打ち勝つためのコミュニケーション力を備えた人材が必要です。皆さんにはその力があります。その力を信じて、こつこつとたゆまぬ努力してください。「牛歩、千里を成す」です。

専攻科に入ると一層研究の機会が増えるでしょう。新しいことを考え、それを形にする行為は非常に楽しいことです。研究のポイントは新規性です。既往の研究で成しえなかった課題を探し出すことが重要になります。課題を見つけ研究テーマとする時点で研究論文が6割完成といっても過言ではありません。新規性を伴うためには、既往の研究をきちんと整理し、自分の研究の位置づけをする必要があります。問題を発見する感性を鍛えるとともに、既往の研究の整理を通じて課題を明確化する論理的な思考力も養ってください。そして、研

究成果を学会で発表し、先輩に見習って学会賞をたくさん取っていただくことを期待します。

工学的研究には新規性に加え、社会的有用性も必要となってきます。研究成果が技術として結実し、人々の暮らしや産業、そして社会の発展に貢献することも問われます。新規性と有用性を技術が伴うことで創造的かつ実践的になります。そのような技術を生み出すエンジニアになるため一所懸命勉学に励んでいただきたいと思います。

私が最近読んだ本「2050年の世界 英エコノミスト誌は予測する」の中に気になる言葉がありました。「次なる科学のフロンティアは、化学でも物理学でもなく生物学にある。」と。このことは伝統にとらわれず学際的な学問領域を研究することの必要性をうたっているように思います。さらに、これに続いて「非西洋では随一の技術大国である日本でさえ、本格的な基礎科学の研究は立ち遅れている。日本人研究者で科学部門のノーベル賞を受賞したのはわずか15人。それはオーストリアの受賞者数より一人多いだけ。人口は日本の7%以下のオーストリアに比べて。その理由の一つとして、日本の若手科学者が先達の理論に迎合しがちなことがしばしば挙げられる。これに対して欧米では、旧来の理論を否定することでキャリアが築かれる。」とあります。欧米にひいき目のところがありますが、批判精神の重要性を強調している点は肝に銘じておくべきでしょう。創造のためには批判、そして抵抗、ただし科学的根拠を持った批判が重要であるということを指摘したいと思います。

さて、専攻科修了後は社会人として働きたいと就職する人もいるでしょう。研究心旺盛な人は大学院へ進学もするでしょう。そのような将来に備えて専攻科2年間の中で自分らしさを発見し、自分にあった道を選んでください。未来の社会は皆さんが創ることができます。この新しい社会の担い手になるべく、専攻科2年間の生活を有意義に過ごしてください。皆さんの更なる成長・発達を願って、お祝いのあいさつとします。

平成25年4月5日

鈴鹿工業高等専門学校長  
新田 保次